

■ 特集 2

第4回 JB 東京展開催 (06/07年秋冬)

併せて JTC 応募作品やパリ展での出品素材を展示



FDCは11月7日から9日までの3日間、東京・青山の青山ベルコモンズで「JB(ジョイント尾州)秋冬東京展」を開催する。16社が参加して「06/07年秋冬素材」を提案する。これに併せてJTC(ジャパン・テキスタイル・コンテスト)開催委員会の公募したコンテスト応募作品を展示、さらにJBブランド構築事業実行委員会が9月にパリで開催した「第2回JBパリ展示商談会」の出品素材を展示する。3種の複合展示効果で来場者の量、質の飛躍的拡大をはかり、商談の進展を目指す。JB東京展の出点数は各社ブース計で約730点、FDCインデックスコーナーで160点の合計890点。

複合イベントで来場者に利便



「JB秋冬東京展」には尾州産地企業16社が参加して、06/07年の秋冬素材を展示するが、東京展は今回が4回目で、東京のファッション業界でも定着したイベントになっている。過去毎回1社平均350点前後のサンプルオーダーがあり、前回の今年6月展では906名が来場し、計5,869点(1社平均367点)のサンプルオーダーがあった。

今回の06/07年秋冬展は、

国際的なファッショントレンドがウール素材に向かっている

国内でのウォームビズキャンペーンの展開でウールに関心が高まっている、
などから起毛素材、ツイードなど暖か素材などに引き合いが集まるものと期待されている。厚地のほかウールガーゼなど薄地素材も

コーディネートアイテムに注目されており、FDCインデックスコーナーや各社ブースで展示する。

JTCのコンテスト応募作品は例年300~400点に達しており、今年も国内産地はもちろん海外からも多数の応募が期待されているが、これらの応募作品を会場の10階に特別展示し、内覧会形式で来場者に披露する。同コンテストの締め切りは10月14日だが、ビジネスチャンス希望する出展者に便宜をはかろうというものである。

作品はウールにこだわらず、綿、絹、麻、合繊、レーヨンから金属、紙など多彩な応募が見込まれており、来場者は同一会場で全国産地の先行素材を見ることができる。なお、コンテストは10月26、27日に審査会、11月16日に表彰式が行われ、同日から優秀作がFDCで展示される。

さらに、今回のJB東京展では9月16日から19日までパリで行われた「第2回JBパリ展示商談会」に出品した素材も9階に展示する。同展示商談会では会期前に進めた事前提案を含めてイタリア、フランスなど56社から640点のサンプルリクエストがあった。



9月に開催したパリ展

この中にはアルマーニ、エルメス、クリスチャン・ディオール、アニエスベーなどの有名ブランドも含まれており、来場アパレルなどの関心を引くものと期待されている。

FDCでは「複合イベントで尾州産地を中心としながらも、内外の先行素材に注目していただき、来場者のビジネス便宜をはかりたい。また世界的アパレルの注目素材も展示し、パリでの成果の一端を見てもらう」としている。

出展各社、秋冬で強気計画、浮上へゴーサイン

ところで同シーズンに対する各社の販売計画は

- 横ばい = 3社、
- 110%台 = 4社
- 120%台 = 5社
- 130%台 = 1社
- 150%台 = 1社 (回答13社)

というもので、極めて高い数値になっている。その背景としては「トレンドがウールに向かっている」(いわなか)、「ウォームビズ効果でウールの需要が増える」(森織物)というトレンド、環境の改善があげられている。こうした動きは「05/06年秋冬の動きから判断して」(中外国島)もうかがわれるが、各社ベースでは「05/06年秋冬はツイード中心の企画をした。厚手物の売れ行きが伸び悩んだので、06/07年は薄地企画を中心に増収を計画」(渡六毛織)、「売り切る決意」(木玉毛織)、「積極的に攻める」(山長)、「新規販売先を増加させアップを図る」(艶金興業)、「商品ゾーンの拡大による販路の拡

大」(みづほ興業)といった積極姿勢も背景にある。

ちなみに回答15社の80%が増加、20%が横ばいと回答し、「マイナス」はゼロだった。増加の平均値は約18%増となり、これが実現すると、尾州産地は長期低迷から一転、反転攻勢の転じることになる。

販売増に関して各社はそれぞれの背景、理由を述べているが、大きくは

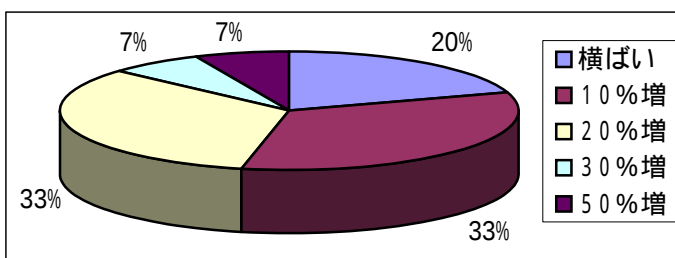
国際的なトレンドが薄地を中心としたウールに傾いている

国内ではウォームビズキャンペーンの成果が期待される

過去3回のJB展を通じて、今回も新規顧客の獲得の勝算がある、などに集約できよう。

特に今回のJB展は9月のパリ展の事前提案でアルマーニ、C・ディオールなどのピックアップ素材も展示されることから、引き合い拡大が期待される。

《06/07年秋冬JB東京展出展企業・販売計画》(回答15社)



0 6 / 0 7 年秋冬・第 4 回・JB 東京展主力出展素材 (順不同)

社名	主力出展素材	セールスポイント
小池毛織	ウールの光沢加工 (とれない光沢) アンティークタッチ仕 上げ加工のバリエーシ ョン ニュージーランドメリ ノの差別化素材	ニュージーメリノを軸にベーシック素材の差別 化商品および加工での差別化商品
日本エース	ウールガーゼ ウールタンブラー シワ加工	幅広い素材をリーズナブル価格で提案
艶金興業	ウール圧縮素材 複合ニット 特殊ツイード	軽さ、暖か味のある素材と加工
田中テキスタイル	地球に優しい天然繊維 ふわふわもこもこ ウール麻	もったいない原料による膨らみのある素材 目で感じ触って感動、着て楽しむ
長大	獣毛アンゴラの極細番 手で織り上げたソフト で上品さあふれる素材 ソフトな肌触りと表情 感を出し、膨らみを持 つソフトロービング A B S O R B W O O L 加工(糸染め加工)を 施した、ウールの特徴 はそのままに、風合い のみ変化させた素材	アンゴラの持つ独自の柔らかさと光沢はそのま まにして、極細番手で織り上げた素材を中心に、 バリエーションを増やした。さらに織り上げる 前、糸で加工して、表情・肌触りを变化させた 素材も提案。
森織物	細番手タスマニア 1 0 0 % フラノ 同ツイード	紡毛太番手から細番手までカラーストックして いる。
いわなか	タスマニアチェブー (当社オリジナルウール) アトムシルク (強化シルク) オージョウール	P V (プルミエールヴィジョン) 出展素材と同 じ商品を展示。
石慶毛織	スーパー 1 2 0 ' S アンゴラ カラミ	天然繊維で暖かタッチ

野村産業	デニムのバリエーション（コットン、バンブー、シルク） エアー交絡糸を使用した軽くてボリューム感のあるツイード ウールコットンの軽くてソフトな薄起毛	見た目にはボリューム感があるが、軽くてソフトな素材
山長	梳毛カシミア１００％ タスマニア１００％ダブルクロス ウールレーヨンギャバジン	原料からの差別化にこだわり、それを撚り及び織り、整理でまでの各工程でさらに差別化した商品群。
中外国島	ウールと異素材の交織 紙使用の素材 織り組織の変化	ウールプラスα（アルファ）で。
木玉毛織	極細ウール 強撚加工 圧縮ジャージー	軽くて薄くて、透けるをポイントに細番手から太番手までの両極素材
みづほ興業	ウールのマルチカラー ウールのマルチカラー 防染 モール使いジャカード	織・加工による高付加価値
渡六毛織	キュプラフィラメントとウールなどの複合 梳毛獣毛（アンゴラ、カシミア） 複合素材	他社には負けない企画力で、こだわりのある良質原料を使った、自社オリジナル素材の提案
三星毛糸	シルク混ベルベット タッセル綿別珍 ウールジャージー	主力素材に様々な加工を提案
早善織物	ポッサムシルクコットン使いのツイード、フラノ インドバンブーシルク使いのツイード、フラノ起毛 ドライウール交織によるツイード、フラノ、メルトン	新素材のポッサムシルクコットンやインドバンブーシルク使い、ドライウールリネンやドライウールコットン エコ素材やセーフティー素材などの組み合わせを含めた新しい複合素材 カシミア、カムデンモヘア、スーリーアルパカ、ポッサムなど獣毛バリエーションもツイード、フラノから起毛まで カシミアを中心にコストパフォーマンスを訴求した商品

第4回・JB東京展出展各社の期待 (順不同)

社名	出展点数	期待と抱負
小池毛織	15	回を重ねる毎に充実している。更なるステップアップで、商売拡大につながることを期待。
日本エース	80	販路拡大。
艶金興業	40	新規顧客の獲得に期待。
田中 テキスタル	50 ~ 60	新規顧客の開拓。
長大	100	前回より今回と着々成果が出ている。JBパリ展もまずまずの成果だった。JBが世界のトレンドになれるよう頑張りたい。
みづほ興業	50	顧客による自社商品の判断評価と新規顧客の開拓。
早善織物	200	昨年の倍以上の受注を期待。
石慶毛織	50	価格(単価)ではなく、本物の良さをわかっていただける顧客の来場。
野村産業	40	
山長	100	共同で商品開発をして市場に出していき、新規顧客を獲得したい。
森織物	10	新規お客様の獲得。
中外国島	20 ~ 30	新規開拓。
木玉毛織	50	今までにないチャネルへの販売。
いわなか	150	集客力。
渡六毛織	50	アパレルとの交流を更に深め、共同企画開発ができるようなアイデアを引き出す場にしたい。
三星毛糸	10	新規販売先の開拓。

< JB 東京展経過 >

なお、JB東京展の開催経過は以下の通り。

開催期日	対象シーズン	来場者数	サンプルリクエスト数
第1回 04年6月15～17日	05年春夏	882名	5717点
第2回 04年11月9～11日	05/06年秋冬	1074名	5435点
第3回 05年6月14～16日	06年春夏	906名	5869点
第4回 06年11月7～9日	06/07年秋冬	名	点